

〈全校研究主題〉

生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら、一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

〈技術・家庭科の生徒の実態〉

- 実践的・体験的な学習を行うなかで、他者との協調性を大切にし、協力して作業できる生徒の姿が増えた。
- 作品製作では、緻密さにこだわり、基礎的・基本的な知識及び技術を習得しようとする姿が多い。
- 学習内容が、生活する上で直面する様々な問題のどのような解決につながるのか、見通しをもって学習することに弱さがある。
- 学んだ知識と技術を応用した解決方法を探求したり、組み合わせたりして、自分たちの生活に結びつけ生かすことができない生徒もいる。

〈授業で生み出したい姿〉

〈主体的・対話的な姿〉

- *自らの生活や実体験に基づいて課題をつかみ、学習の見通しや願いをもちながら、その課題解決に向かって進んで作業活動ができる姿。
- *基礎的・基本的な知識及び技術を習得するため、仲間と協力しながら作業する姿。

〈課題解決できる姿（深い学び）〉

- *既習の技術や生活の営みに係る見方・考え方を活用し、課題解決に向けて解決策を構想し、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築を目指すとする姿。

〈技術・家庭科研究主題〉

自ら願いをもち、進んで生活を工夫し創造する生徒

〈研究主題設定の理由〉

昨年度の研究では、各単位時間において生徒一人ひとりの実態をつかみ、見届けを行うことで、各学習段階の生徒のつまづきを予想し、必要となる適切な指導・援助が可能となった。また、自分の製作や作業の目的となる「願い」をもとにした題材を貫く課題を設定することで、生徒の「作りたい」「やってみよう」という製作や学習に対する意欲を高めることができた。

一方で、学習した内容を用いて、自らのよりよい生活の実現を目指すために、製作段階において直面した課題に対して、さらなる工夫を考え実践しようとする生徒が少なかったことも事実である。

技術・家庭科部が考える「主体的・対話的に学ぶ生徒」の姿とは、製作作業や学習に見通しをもち、実践的・体験的な活動を通して、仲間と共に課題解決に向け解決策を構想し、よりよい生活の実現を目指すことのできる姿である。そこで、本年度は、上記のような研究主題とした。

本年度は、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養えるように、題材を通してつけたい資質や能力を明確にして、各単位時間での「主体的・対話的な姿」を明確にしていきたい。また、学習や製作における「願い」をもとにした目的を明確にし、目的意識や見通しをもてるように工夫していきたい。

〈研究内容1〉

「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

- ・題材を貫く課題を設定し、題材で働かせる見方・考え方を明確にした題材構成を仕組む。
- ・題材の終末において、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向け、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養えるよう工夫する。

〈研究内容2〉

一人一人が課題解決できる手立ての工夫

- ①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫
 - ・学習や製作における「願い」をもとにした単位時間の出口を明確にし、目的意識や見通しをもてる導入や課題設定を工夫する。
 - ・生徒同士で交流する場面では、付箋やホワイトボードを活用して、視覚的に学びを実感できる対話的な活動を行う。
- ②学びの状況を実感できる授業終末の工夫
 - ・相互評価をしたり学んだ用語を用いて、本時の課題についてまとめたりする活動を通して、学習の定着状況を見届け、生徒自身の学びの伸びを実感できるよう工夫する。

研究の基盤（確かな学級経営と教科横断の共通指導、PDCA サイクルを意図した指導）

- ①互いに認め、高め合える学級集団の育成 ②生徒の自主的な活動の推進 ③基礎・基本の定着